

① ペトロが使徒たちを代表して語った言葉

今朝の聖書箇所は、弟子たちの上に聖霊が降ったペンテコステの日に、ペトロが使徒たちを代表して語った言葉です。ペトロは「イスラエルの人たち」(22節)と呼びかけます。彼らはユダヤ人も呼ばれ、神様から遣わされるメシアを待ち望んでいた人々です。自分たちは神様から選ばれ神様を信じて生きていると思っていました。そのような人々に向かって、神様から遣わされたイエス様を「あなたがたは……十字架につけて殺してしまった」(23節)と告げたのです。今朝の聖書箇所の続きでも、「あなたがたが十字架につけて殺したイエス」(36節)というように、話を聞く一人ひとりがイエス様の死に関わっていることを強調しています。聞いていた人々の中には、イエス様の十字架刑の時にエルサレムにいなかった人もいたでしょうし、あれは祭司長や律法学者たちが率先してやったことで私には関係ないと思う人がいてもおかしくありません。しかし、イエス様の死が自分自身の罪の為であることを知ることは、神様のご計画を喜びと共に受け入れることに繋がります。

② ペトロの大泣き

今日のペトロは、大勢の人々に向かって、「あなた方はイエス様を十字架につけて殺してしまったのです」と言いました。人々の悪いことを堂々と言えるなんてペトロは後ろめたいことなんて一つもなかった人だったのでしょうか？ いいえ。ペトロにも胸が痛くなるほど、自分が嫌いになるようなことがありました。それは、大好きなイエス様を見捨てて逃げてしまったこと。何も悪いことをしていないイエス様が逮捕された時、怖くて逃げた上に、自分がイエス様の仲間だとバレるのを恐れて、「イエス様のことなんて知らない」と三回も嘘をついたのです。自分はなんてことをしてしまったんだって、ペトロは後でワンワンと大泣きしました。そんなペトロが、なぜ人々の前でこんなに堂々と話せるようになったのでしょうか？ ペトロが絶望の中から立ち上がったのは、復活したイエス様に会えたからです。驚きの変化です。この変化こそ、イエス様の十字架の死の先に、続きがあったことの証しです。ペトロの呼びかけを私たちにも向けられた言葉として受け取りたいです。

③ イエス様と立ち上がる

復活されたイエス様は、ペトロたちを責めるどころか、「あなたがたに平和があるように」と声をかけ、変わることなく愛を注いでくださいました。そして、イエス様のことを伝える大切な務めを与えてくださいました。ペトロは、自分の弱さや不甲斐なさにガッガリしたからこそ、イエス様の愛が身にしみたのでしょうか。そして、「イエス様の死と復活は、みんなのためでもあったのですよ」と話しました。ペトロは、復活のイエス様に会い、神様のゆるしを受け取りました。福音書にはペトロの失敗談がたくさん書かれていますが、こんな自分でも決してお見捨てにならないイエス様の愛を、ペトロは喜んで証言したのでしょうか。イエス様の十字架の死が自分たちのためだと受け入れる人は、復活のイエス様との出会いによって、神様のゆるしの確かさを知ることができます。私たちもペトロのように、失敗したり、間違えたり、誰かを裏切ったりすることがあります。でも、どんなに私たちが失敗しても、神様は私たちのことを大切にしてください。そのことを伝えるために、イエス様は十字架の上で死んで、そして復活なさいました。間違えても、悪いことをしても、誰かのせいになくていいのです。どんなことがあっても私たちを大切にくださる神様に「ありがとう」と言って、やりなおしましょう。イエス様が一緒です。イエス様と立ち上がりましょう！